

World's Window

さあ、窓を開けて世界をのぞいてみようよ

世界の窓



大きく地割れした市内の道路

世界の国々や文化を紹介する「ワールズ・ウィンドウ」！ 案内役は、国際交流員リサアン・カワチさんとエイミー・タッペンデンさんです。

Vol.91 クライストチャーチの大地震

Hello!! はじめまして、8月から役場に勤務している国際交流員のエイミーです。今回は、わたしの出身地クライストチャーチで2010年9月と2011年2月に発生した大地震について書きたいと思います。

わたしの国も日本と同じように地震が多い国で、東日本大震災のほんの少し前に、東北の皆さんと同じような大地震を体験をしたんですよ。

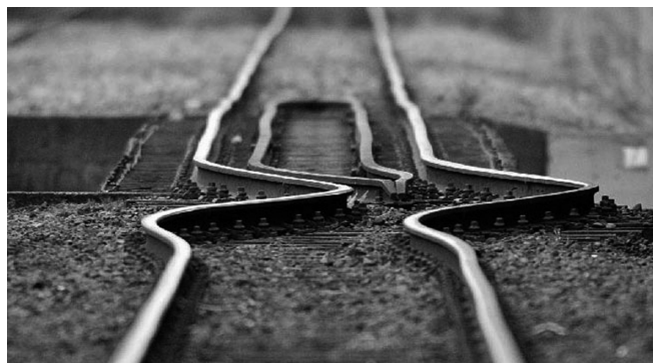
クライストチャーチは、南半球にある小さな島国ニュージーランドの南島の東海岸にある都市です。クライストチャーチはニュージーランドで2番目に大きい都市で人口は40万人です。

2010年9月4日の午前4時35分にマグニチュード7.1、震源の深さ10kmの地震が発生しました。その震源地はクライストチャーチの西方面にある小さな町でした。今でも国中の人たちが信じられないことは、幸運にもその地震で1人の死亡者もいなかったことです。余震も毎日のように続き、やっと収まったかと思えばまた強い余震が起こるという毎日を送っていました。



△2011年2月22日、倒壊したオフィスビルやショッピングセンター

この日は火曜日でしたのでわたしは大学、父親と母親は仕事のため別々に行動していました。わたしは正午に講義が終了したので12時40分ごろに帰宅しました。外に出していた犬を家の中に入れた直後に地震が発生。立っていたわたしは地震の強さで床に倒れ、家の壁が左右に激しく揺れるのを目にしました。強い地震を経験した事がない人たちには多分



△線路もグニャグニャになってしまいました

からないと思いますが、あの「地震の音」が家中に響きだしました。犬が大丈夫だと確認した後、仕事でクライストチャーチの中心部にいた母親にメールを送り、家から車で10分ぐらいのところで働いていた父親にもメールを送りました。その後小さな牧場に住んでいる祖父母に電話をかけ、話している途中にまた地震。今度はマグニチュード5.8の余震でした。家の中にいるのが怖くなってしまったわたしは、おばあさんとの電話を終え、雨で濡れていた芝生に座り犬と携帯電話を持ち両親の帰りを待っていました。

母親は無事でしたが、地震前に車を古くて高いビルの駐車場にとめたので、そのビルの出入り口が地震で塞がれて車を出せない状態になってしまい母親は同僚と歩いて帰宅しました。母は中心部のビルが倒れるところや、会社員や市民が怪我をしている風景も目の当たりにしました。とっても怖くて映画でしか見ることがないような光景で信じられなかったそうです。父親は勤め先が私立の男子高校なので、生徒全員を避難させ保護者の迎えを待ってから帰宅しました。もう正確には覚えていませんがわたしが両親の帰宅を待っていた時間は確か4時間以上超えていたと思います。

わたしはあの日の嫌な出来事と気持ちを封印してしまい、思い出したくないと思っていましたが、鶴田町の国際交流員としてこの記事を書くに当たり振り返ってみることができました。

皆さん、震災復興のため力を合わせましょう!!



△倒壊した自宅の前に抱き合う夫婦